

政府事故調聴取記録からのノンテクニカルスキル教訓の抽出

Extraction of Non-Technical Skills Lessons from YOSHIDA Testimony

*彦野 賢, 作田 博, 金山 正樹, 後藤 学, 松井 裕子

株式会社 原子力安全システム研究所

2014年9月に公開された政府事故調聴取記録は、過酷事故に遭遇した際の現場指揮官の貴重な教訓と考えた。そこで元発電所長の聴取記録から気づき箇所を抽出し、抽出した箇所について、主語およびノンテクニカルスキル分類にそれぞれ整理した。その結果、職責に応じた課題が指摘できる可能性を示した。

キーワード：吉田調書, ノンテクニカルスキル, 教育訓練

1. 緒言

福島第一原子力発電所事故の政府事故調査・検証委員会ヒアリング記録[1]、中でも元発電所長の聴取記録は、多くの著作(例えば[2][3]など)により取り上げられ、電力会社も教訓を得て[4]、福島第一原子力発電所事故と同じような過酷事故が発生したとしても、事故からの影響を最小限に抑えるようハードおよびテクニカルスキル中心の対策がとられている。聴取記録は当時の原子力発電所長の様子を知るうえでの貴重な情報源と考えられるが、過酷事故に対応する際の現場トップおよび緊急時対応チーム(発電所円卓)の人的要因に焦点をあてた教訓の抽出はあまり行われていない。そこで本報では、フィリンらが提唱しているノンテクニカルスキル分類[5]に着目し、教訓抽出を試みた結果を報告する。

2. 方法

元発電所長の聴取記録(PDF ファイル 10 個[1])を抽出対象とした。抽出者は6名(原子力発電所勤務経験を持つ研究者4名、心理学系卒研究者2名)であった。1つの聴取記録(2011年7月22日聴取日)を先行実施した。元発電所長の発話記録テキストのうち、人的要因が関係すると考えられる箇所を各抽出者がマーキングし、キーワードを付記した。キーワードは、各箇所について「課題/良好/中立(評価)」、「それは誰(個人もしくは組織)に関する内容か(主語キーワード)」、そして、「その内容を簡潔に表現する(内容キーワード)」の3つであった。さらに、内容キーワードは抽出者2名(原子力発電所勤務経験者と心理学系卒)によりフィリンのノンテクニカルスキル分類別に整理した。

3. 結果・考察

先行着手した記録について6名が抽出したマーキング箇所は154箇所(課題105箇所/良好40箇所/中立9箇所)であった。抽出者間で意見の異なる箇所は29箇所(全体の18%)あったが議論を通じて意見統一した。同様に他9記録について実施した結果、全体で777箇所が抽出された。「中立」を除いた689箇所の「内容キーワード」は103項目、「主語キーワード」は52項目であった。「主語キーワード」を、内容の類似性で更に分類したところ、7項目に集約された。

図1に、主語キーワードのうち発電所長と発電所円卓について、課題として評価されたノンテクニカルスキル分類ごとの抽出件数を示す。この結果、例えば発電所長については「ストレス下での人間特性」、発電所円卓については「状況把握」、「コミュニケーション」の箇所数が多いことが分かった。結果は、それぞれの職責を対象とする教育訓練を計画する際には重要な視点が得られる可能性を示した。

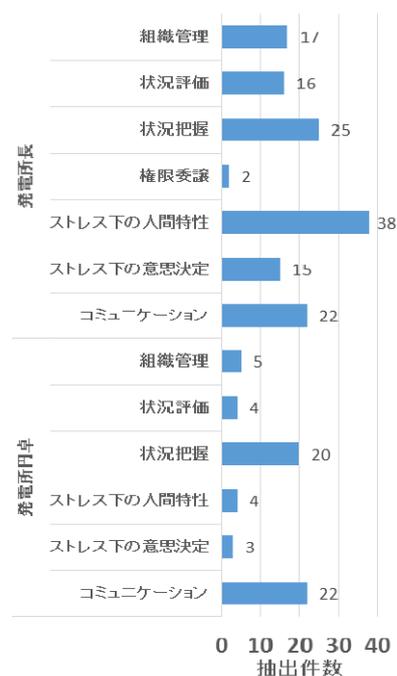


図1 ノンテクニカルスキル分類毎の課題の抽出件数

参考文献

- [1] 内閣官房 HP http://www.cas.go.jp/jp/genpatsujiko/hearing_koukai_4/hearing_list_4.html
- [2] 門田隆将(2014)「吉田調書」を読み解く 朝日誤報事件と現場の真実
- [3] 一般財団法人日本再建イニシアティブ(2015) 吉田昌郎の遺言 吉田調書に見る福島原発危機
- [4] 福井県 HP <http://www.atom.pref.fukui.jp/senmon/dai81kai/ref.pdf>
- [5] フィリン(2012) 現場安全の技術-ノンテクニカルスキルガイドブック- 小松原ら訳

*Masaru Hikono, Hiroshi Sakuda, Masaki Kanayama, Manabu Goto and Yuko Matsui
Institute of Nuclear Safety System, Inc.